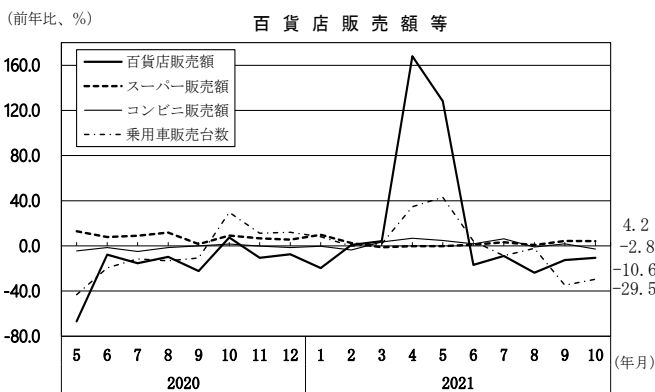


● 最近の県内経済  
(2021年10月を中心として)

今月の概要

県内景気は、個人消費を中心に、このところ持ち直しの動きがみられる。

1 個人消費 このところ持ち直し



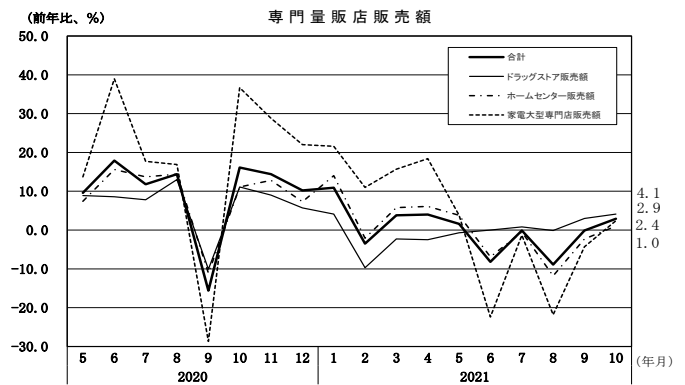
(資料) 経済産業省、埼玉県自動車販売協会など

個人消費は、緊急事態宣言の解除等、新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が徐々に緩和される中で、飲食・サービス・イベント関連を中心に、このところ持ち直している。

10月の百貨店およびスーパーの販売額（店舗調整前）は、百貨店が118億円で前年比10.6%減（5か月連続の減少）、スーパーは965億円で同4.2%増（5か月連続の増加）となった。また、コンビニ販売も530億円で同2.8%減と、2か月ぶりの減少となった。

乗用車販売は、前年比29.5%減と4か月連続の減少となった。内訳をみると、普通車（同24.0%減）は2か月連続の減少となったほか、小型車（同33.9%減）、軽乗用車（同31.8%減）は、いずれも5か月連続の減少となった。

スーパーやコンビニにおいては、緊急事態宣言解除後も巣ごもり需要が堅調に推移した一方で、原材料価格高騰の影響がみられた。



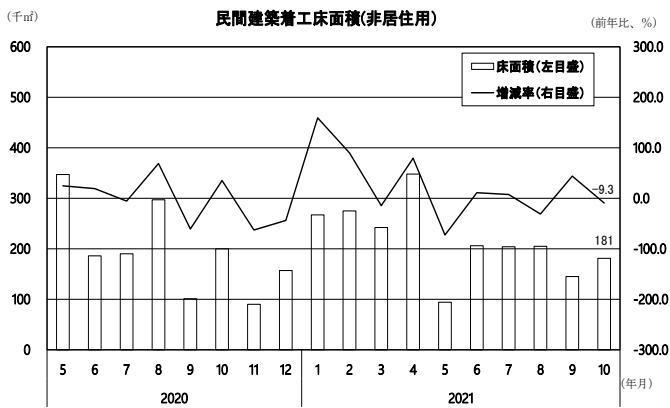
(資料) 経済産業省

10月の専門量販店販売額は、716億円で前年比2.9%増となった。内訳をみると家電大型専門店が164億円で同2.4%増（5か月ぶりの増加）、ドラッグストアが375億円で同4.1%増（2か月連続の増加）、ホームセンターが178億円で同1.0%増（5か月ぶりの増加）となった。

関東1都6県の消費者態度指数（原数値）は、9月〈38.5〉、10月〈40.2〉、11月〈40.0〉で推移している。

## 2 設備投資

持ち直しの動きがみられる



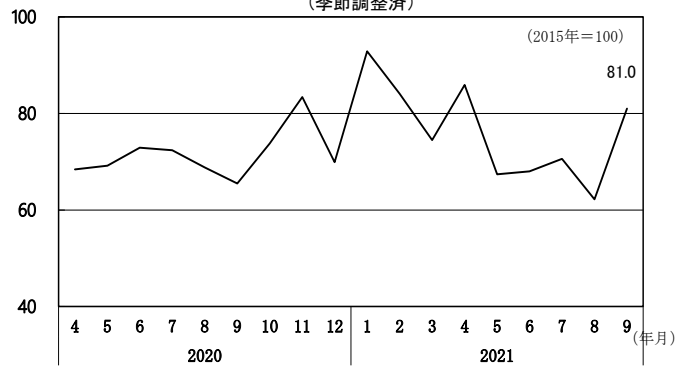
(資料)国土交通省

世界経済の拡大や、旺盛な半導体関連需要を受けて、製造業で投資意欲が活性化しているほか、昨年コロナ禍で見送った案件の実行も幅広い業種で見られる。

10月の民間建築着工床面積（非居住用）は、181千㎡で前年比9.3%減となった（5か月後方移動平均では前年比3.3%減）。

用途別にみると、事務所、工場及び作業場、病院・診療所は増加したものの、店舗、倉庫、学校の校舎はいずれも減少した。

## 資本財出荷指数 (季節調整済)

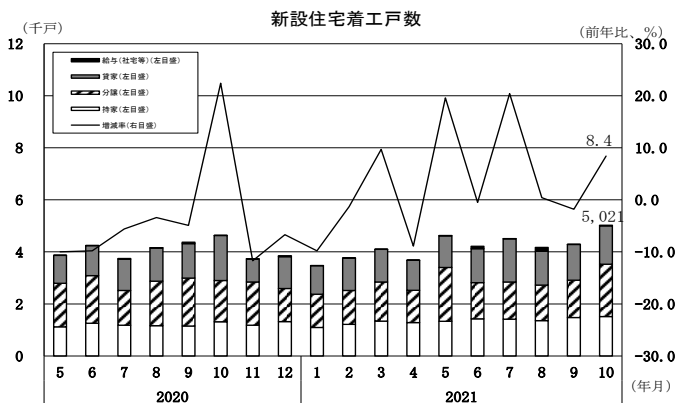


(資料)埼玉県

9月の資本財出荷指数（季節調整済）は81.0で、前月比30.2%増と2か月ぶりの増加となった（5か月後方移動平均では、前年比1.0%減）。

## 3 住宅建設

持ち直している



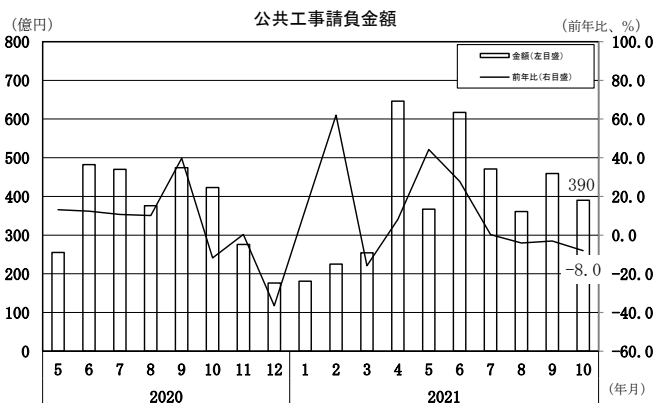
(資料)国土交通省

コロナ禍で低調だった昨年の反動増に加え、郊外で広い家を求める動きもあって、本年入り後持ち直している。

10月の新設住宅着工戸数は、5,021戸で前年比8.4%増と2か月ぶりの増加となった（5か月後方移動平均では、5.0%増）。利用関係別にみると、貸家（1,472戸）が同14.8%減となったものの、持家（1,515戸）が同15.2%増、分譲マンション（696戸）が同52.3%増、分譲一戸建（1,302戸）が同15.4%増となった。

## 4 公共工事

高水準にあるものの、このところ弱含んでいる

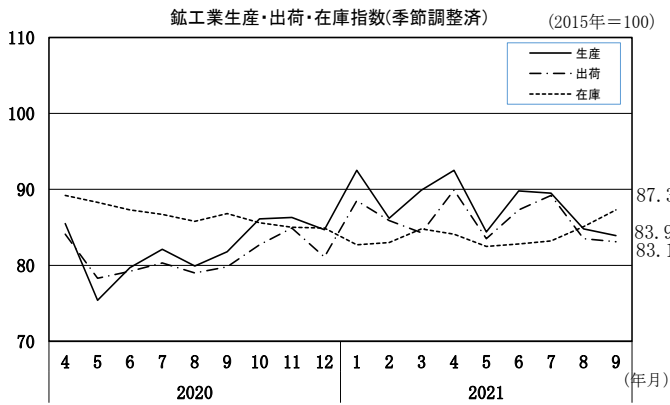


(資料)東日本建設業保証株式会社

政府の2020年度補正予算において、大幅上積みされた公共事業関係費の一巡から弱含んでいる。

10月の公共工事請負額は、390億円で前年比8.0%減となった（5か月後方移動平均では前年比3.2%増）。発注者別でみると、独立行政法人等、都道府県、地方公社は増加したものの、国、市区町村はいずれも減少した。

## 5 生産活動 持ち直しに足踏みがみられる



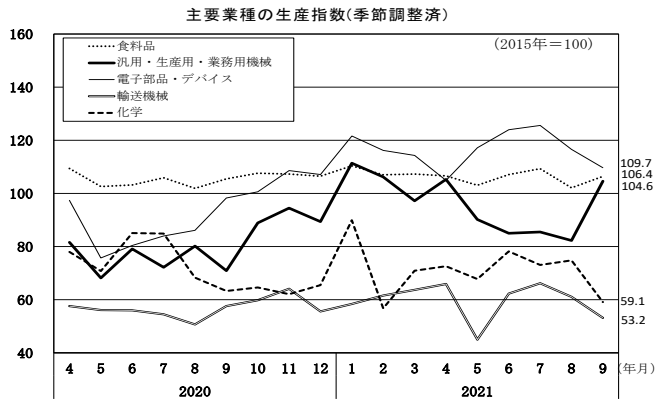
(資料)埼玉県

中国の景気減速を受けた輸出の鈍化や半導体不足を受けた自動車の減産の影響を受けて、持ち直しに足踏みがみられる。

9月の鉱工業生産指数(季節調整済)は、83.9で前月比1.1%低下(3か月連続の低下)(5か月移動平均では86.5、前月比2.0%低下)。生産用機械(フラットパネル・ディスプレイ製造装置、半導体製造装置)、パルプ・紙・紙加工品(段ボール原紙、雑種紙)などが上昇したが、情報通信機械(カーオーディオ、カーナビゲーション)、化学(医薬品、ウレタンフォーム)などが低下した。

出荷指数(同)は、83.1で同0.5%低下(2か月連続の低下)。生産用機械(フラットパネル・ディスプレイ製造装置、半導体製造装置)、食料品(炭酸飲料、チョコレート)などが上昇したが、情報通信機械(カーオーディオ、交換機)、輸送機械(自動車エンジン、輸送機械用エアコン)などが低下した。

在庫指数(同)は、87.3で同2.6%上昇した(4か月連続の上昇)。生産用機械(マシニングセンタ、研削盤)、汎用機械(ポンプ、汎用内燃機関)などが低下したが、電気機械(鉛蓄電池、食器洗い乾燥機)、プラスチック製品(プラスチック製容器、発泡プラスチック製品)などが上昇した。



(資料)埼玉県

◆ 食料品の生産指数(季節調整済)は、106.4で前月比4.2%上昇し、2か月ぶりの上昇となった。

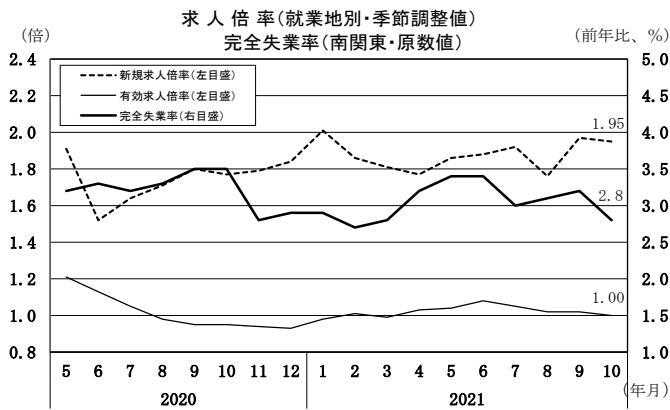
◆ 汎用・生産用・業務用機械(同)は、104.6で同27.0%上昇し、2か月ぶりの上昇となった。

◆ 電子部品・デバイス(同)は、109.7で同5.9%低下し、2か月連続の低下となった。

◆ 輸送機械(同)は、53.2で同12.9%低下し、2か月連続の低下となった。

◆ 化学(同)は、59.1で同21.0%低下し、2か月ぶりの低下となった。

## 6 雇用情勢 弱い動き



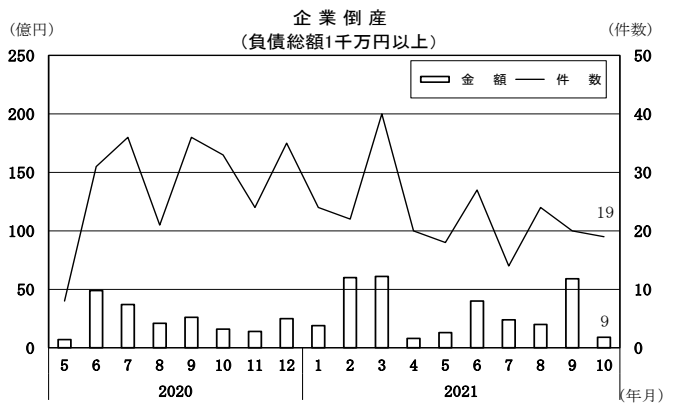
(資料)厚生労働省、総務省

昨年のコロナ感染拡大に伴い、対面型サービスを中心に経済活動が抑制された影響から、弱い動きが続いている。

10月の有効求人倍率(就業地別、季節調整値)は、1.00倍で前月比0.02ポイント低下した(2か月ぶりの低下)。また、新規求人倍率(同)は、1.95倍で同比0.02ポイント低下した(2か月ぶりの低下)。

完全失業率(南関東、原数値)は、2.8%で前年同月比0.7ポイント低下した(前年同月比4か月連続の低下)。

## 7 企業倒産 一進一退



(資料)帝国データバンク

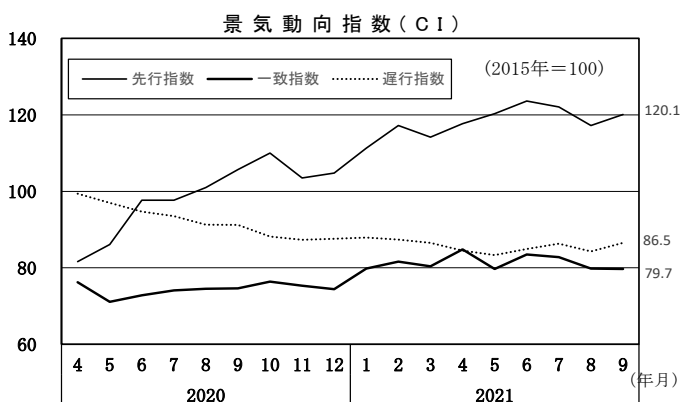
コロナ対策としての政府の資金繰り支援策もあって、低水準で推移している。

10月の企業倒産件数は、19件で前年同月比14件の減少となった。負債総額は9億円で同7億円の減少となった(5か月後方移動平均では、件数は前年比33.8%減、金額は2.2%増)。

業種別にみると、建設業、小売業、サービス業が最多で4件、次いで製造業、卸売業、運輸・通信業がそれぞれ2件と続いている。主因別では、販売不振が16件となっている。

## 〈参考〉

### 景気動向指数(CI) 足踏みを示している



(資料)埼玉県

9月のCI一致指数(景気の現状を示す)は、79.7で前月比0.1ポイント低下し、3か月連続の低下となった。

CI先行指数(景気の数か月先を示す)は、120.1で同2.9ポイント上昇し、3か月ぶりの上昇となった。

CI遅行指数(景気に遅れて反応する)は、86.5で同2.2ポイント上昇し、2か月ぶりの上昇となった。